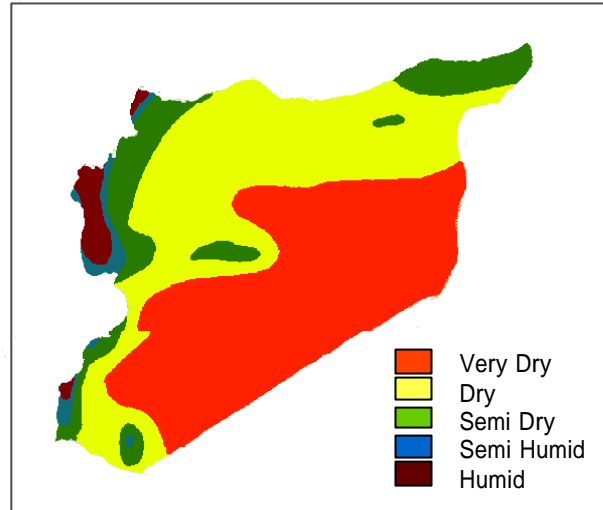


シリアとうもろこし事情

ダマスカスの街角で見かける夏の風物誌という、サボテンの実やピスタチオなどを売る屋台。その中で、そばを通るとプーンと食欲をそそる香りをさせているのが、とうもろこし売り。

たらいのように大きい鍋で、とうもろこしをゆでて売っている。みんなおいしそうに食べているが、はっきりいっておいしくない。ゴムをかんでいるような歯応えで、あごの発達にはいいかもしれないが、味も素気も無い。見た目も粒が小さくて白っぽい。



シリアの気候区分図

在ダマスカスの婦人会からもリクエストがあり、我々が借りている一坪農園に日本のハニーコーンを、5 月末に播種した。一カ月半の休暇一時帰国を終えて、農園に行くと立派なとうもろこしが実っていた。補習校の子供達や協力隊員と一緒に収穫。彼らを通して他の日本人にも分配された。どの人からも「おいしかった」「甘かった」といううれしい感想。農園のオーナーにもおすそわけしたが、彼も「こんなに甘いのを食べたことがない」と感激した様子。

やはり日本と気候が違うせい、草丈はあまり伸びなかったものの、正真正銘の有機栽培無農薬とうもろこし。みんなの、とりわけ子供達の喜ぶ顔を見たさに、今年も去年以上に収穫できるよう頑張ろうと思っている。

(在シリア・大沼)



ダマスカスのとうもろこし売り屋台